

ECAN ヨリヨリ

★ニョースレター★

リレーインタビュー

長崎大学名誉教授

糸山 景大 さん



NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎
Environmental Counseling Association of Nagasaki (ECAN)

<http://www.npo-ecan.org/>



Merry Christmas!

ECAN 活動報告

ながさき漂着ごみサミット
三次元環境紙芝居

チングば **ウォッチング!**

波佐見・緑と水を考える会

職員紹介 村田 麻理恵 さん

FREE!!
vol.

IO

いい人、いい自然、いい長崎

環境カウンセリング協会長崎は美しい長崎の創造に貢献したいと願っています

「ものを考える」と「ものおもしろさに惹かれて」



長崎大学名誉教授
環境カウンセリング協会長崎・理事

糸山 景大 先生



【プロフィール】	糸山 景大 (いとやまかげひろ)
1944 年	長崎県佐世保市生まれ
1968 年	熊本大学大学院工学研究科修了
1968 年	佐世保高専電気科助手
1970 年	長崎大学教育学部転出
1989 年	長崎大学教育学部教授就任
2009 年	定年退職。長崎大学名誉教授
2010 年	長崎大学生涯学習教育研究センター客員教授

―大学ではどのようなことを教えていたのですか？

昔、長崎大学教育学部の技術科には、木材加工、金属加工、機械、電気、栽培、教育法という6つの分野があり、電気・電子工学を教えていました。26歳の新婚ホヤホヤで赴任してきました。

―もともと教育に興味があったのでしょうか？

そんなことはありません。佐世保高専に務めていたときに、長崎大学から誘いがあった、どちらか研究をやりたいのかを考えました。職場としてみ

れば、佐世保高専は非常に面白いところでしたが、どうしても研究をやりたいことが友人からも勧められたこともあり、長崎大学を選びました。

―大学で働いてみて、どうでしたか？

大学の教員でよかったと思うのは、やっぱり研究ができて面白かったことです。それから、学生諸君と一緒に何かをやれたことが本当に楽しかったです。学生が言うには、私が研究を指示して、学生がデータを持つてくると大変喜んで褒めるんだそうです。私がすぐに「学会発表しよう」と言うので、学生は自信とやる気を持ち、自ら勉強します。そして、また私が褒める。この繰り返しです。だから、学生諸君とも何度か国際学会に行きました。

―その頃も電気・電子工学の研究をされていたんですか？

その頃は、環境問題にかなりのめり込んでいて、放電現象を利用した排気ガス浄化装置の研究をしていました。ごみの問題に取り掛り始めたのは、それよりもっと前の25年くらい前です。1992年に長崎伝習所「リサイクル文化研究塾」を作り、そこで市民の方と一緒にごみやりサイクルの問題を考えていました。

―ごみ問題を考えるようになったきっかけは何ですか？

私は、「リサイクル文化研究塾」を作る前から、モノが循環するシステム全体を「技術」と呼ぶと言いつつ始めたんです。そのことを確かめるために、ごみの問題に取り組み始めました。

モノとエネルギーの循環をしつかり作り上げることが技術のあるべき姿だと今でも思っています。循環が途切れている技術は、中途半端な技術だと思います。端的にいうと、高レベルの放射性廃棄物処理の技術が確立されていない原子力発電がそうです。中途半端な技術を使うときは余程注意してかからないといけない。

中途半端な技術はいっぱいあります。戦後、もとの姿に戻らないものを人類は作りあげてきました。例えば、有機水銀系の化合物。しかも、これらは外に流れ出た時、非常に危険な毒性があります。だから、そのような技術を使うときには、合意が必要だと言っているんです。そんな技術を使つてしまつた理由は、単に会社が利潤を追求したからです。完全な技術ならば、みんなの合意を作りあげることが難しいことではないはずです。

―今ではあたりまえとなっている長崎市のごみの分別。糸山先生がご尽力されて、今のごみの分別が制度化されたとお聞きしましたが、その経緯を教えてください。

当時、長崎市のリサイクル廃棄物対策推進協議会の会長をしていました。1992年頃は、長崎市内の大学関係者でごみの問題を扱う人は一人もおらず、行政が私を引っ張りだしたという経緯です。

その当時は、長崎県も長崎市もごみの量が多く、全国で多い方から8番目でした。ごみを減らすために、まずは分別してもらい、資源化する量を多くしようと考えました。それ以降、長崎県・長崎市のごみは、右肩下がりに減っています。少ない方から数えて、全国12位くらいでしょうか。環境カウンセリング協会長崎（イーキャン）も長崎県のゴミゼロ

―今一番興味のあることは何ですか？

夢物語で言えば、「潮流発電」をやりたいです。長崎は海岸線が長く、潮流が速いところがたくさんあります。できた電気で塩水を淡水化し、これを電気分解して水素ガスを取り出し、それを燃料として使おうと考えています。形式上は、エネルギーの循環性が保たれるから、「潮流発電」をやってみよう。

その水素は安全性の面から、水素を吸う材料に詰めこまなければならぬ。おもしろい材料として、「炭化した古紙」があります。炭化した古紙に水素を吸わせた実験をしたことがあります。実験の結果、うまくいくと、実は相当な水素を吸うんです。ところが水素をよく吸う炭化古紙の再現性が悪くて…。あわせて「古紙の炭化」もやりたいですね。

21世紀のエネルギーの主力は水素になると、かなりの人が言っていますが、私もその意見に賛成です。水素を潮流や風力・太陽光で作って、消費する場所の近くで電気にする。それが私の夢です。

―未来を担っていく若者世代へ一言お願いします。

世の中の不正だとか不公平さとかいうものに怒りを発してほしい気がします。本当の意味での「変革の力」というものは、そこにある気がします。ただし、そのためにはストイックであつてほしいです。



エコライフフェスタ
3次元環境紙芝居の上演にて

インタビューを終えて

糸山先生の使う用語がわからない私たちを見て、「これは教育せんといかん」とインタビュー中にも関わらず、温かくご指導して下さいました。今回初めてインタビューに挑戦した塩竈・村田でしたが、糸山先生の生き方（人生論）を知ることができ、先生の魅力にひきこまれて、あっという間の2時間でした。

聞き手/ 塩竈綾・村田麻理恵

長崎推進会議の有力なメンバーで、設立当初から委員として関わっていますから、色々な意味で役割を果たしていますね。

―「ゴミゼロ長崎推進会議」をきっかけにイーキャンを知ったんですか？



イーキャンそのものは前から知っていましたが、現職のころは大学の研究や仕事で忙しく、あまり中途半端にはしたくないと思っていました。入るとしたら退職してから入ろうと考えていました。

―イーキャンの良い所・悪い所は、どんなところだと思いますか？

まず、良い所はスタッフが相当そろっていることです。こんなにスタッフがそろっているNPOって、そうあるものではない。簡単に言うと、人材が豊富。可能性はものすごく大きいと思います。

問題は、みんながそれを生かしてきているかということです。私がおのれの方々と一番違うところは、自分がやりたいこと・やることについては、手を挙げるところです。ここだけは、他の人、少なくとも私より若い人には真似てほしい。自分がやること・やってみたいことには、もう少し積極的に発言してほしい。それが、結果的には良いものを創りあげていくんだと思いますよ。

（イーキャンに）注文があるとすれば、手を挙げてほしいということ。私は「お願いすればやる」という主体性のないのは嫌いです。お願いされてやると、逃げ道をつくりそうで。退路を断つつもりで、色々なことに立ち向かっていこうと思っています。それが私の生き方です。



鬼木川源流探検集合写真



魚の手づかみ大賞



波佐見の川・大探検

波佐見・緑と水を考える会

波佐見・緑と水を考える会 連絡先

〒859-3701 長崎県東彼杵郡波佐見町折敷瀬郷 1765

☎ 0956-85-2639 ✉ tkworld.ck@smile.ocn.ne.jp

波佐見川に棲むシーボルトの魚たち

波佐見・緑と水を考える会は、長編記録映画「柳川掘割物語」の上映を期に、失われた「人と自然とのかかわり」を取り戻し、「あの美しく豊かな緑（山）と、清らかな水と親しみのある川を蘇らせよう」を目標に平成2年より活動が始まりました。

主な活動の一つは、毎年8月に開催している「波佐見の川・大探検」魚の手づかみ大会です。「水辺に子どもら呼び戻そう」をテーマに、魚の手づかみ大会を開催しています。今年も8月6日に開催し、「手づかみの技を子や孫に」と意気込む名人指導のもと、子供達は手づかみに挑戦。川遊びの楽しさと、自然のすばらしさを体験しました。魚の手づかみでは、小学生の堀田晃一さんと田崎真萌瑠くんが、50センチ程のナマズの手づかみに成功し、「手づかみ名人の賞」を受賞しました。こうした活動により、今や絶滅が心配な『川のカギ大将』が育つことを願います。

次に、3年前から始めました「シーボルトの川づくり塾」について紹介します。なぜ、シーボルトかと言いますと、シーボルトが中心となつてまとめた「日本動物誌」に記載されている淡水魚は長崎近郊の河川で採取されたとしていて、長崎近郊の河川で、もっとも魚の種が豊富なのは、今も昔も「はさみ川」であることから、シーボルトがヨーロッパに持ち帰った魚たちは波佐見川の魚たちに違いないのではないか？ということです。

そこで、180年前の波佐見川の環境を復元しようという取り組みを住民参加で始めようというのが「シーボルトの川づくり塾」です。波佐見川に棲む魚たちが、生き続けることは、日本の淡水魚類研究の上でもっとも重要である。このことに、夢とロマンを感じて活動を進めています。これまでの塾の取り組みで、シーボルトの魚たちを波佐見焼の陶板にして、魚の案内看板として水辺の楽校に設置しました。

また、塾では、地域の子供たちと「はさみ川・シーボルト隊」を結成し、波佐見川の源流探検と波佐見川に棲む魚の調査を行いました。源流探検では、地元の有志案内人の協力で鬼木川の源を求めて沢を登りました。水神様という祠があり、湖光と湧き水が出ていました。自然の恵みを堪能することができて、シーボルト隊の子供たちも喜んでいました。

今年度の塾のテーマは「鮎の帰る波佐見川をめざして」です。180年前の波佐見川には、鮎が上つてきていました。稗木場郷の村木川に架かる橋に「鮎返り橋」という名前が付けられています。そこで、塾では波佐見川にある堰や魚道を検証して、鮎の上ってくる環境を考えて行きながら、シーボルトが見たであろう？180年前の自然豊かな波佐見川を復元し、緑と水の絶えない町づくりに繋がる活動をこれから継続したいと思います。来年度も「シーボルトの川づくり塾」を開催します。たくさんの方の参加をお待ちしております。

波佐見・緑と水を考える会事務局 田崎武詞



除幕式記念写真



水辺の楽校完成



ながさき漂着ごみサミット2011

長崎県内各地で漂着ごみ問題に

取り組む人たちが一同に集い、連携を深めました！

平成 23 年度 地球環境基金助成金事業

開催日時：平成 23 年 10 月 22 日（土）

10 月 23 日（日）

後援：長崎県・長崎市・西海市

協賛：(有)長崎本舗

海岸清掃とワークショップ

1 日目は、海岸清掃とワークショップ。海岸清掃は、西海市大瀬戸町雪の浦海岸で行い、64名の参加でした。5班に分かれて10m×10mの区画をもうけ、区画内のごみの種類と個数の調査も行いました。ごみの量は、対馬と比較すると格段に少ないのですが、発泡スチロールの小さな破片やペットボトル、プラスチックのかけら、注射器も見つかり、一見きれいに見える浜辺も人により発生したごみが意外と多いことがわかりました。1時間ほどの清掃でしたが、みんなで一丸となつてごみを拾い、77袋（310kg）、袋に入らなかった大きな流木220kg、合計530kgのごみを回収することができました。

午後は、長崎大学総合教育研究棟でECANの頼れる学生理事、前田くんの進行のもと、ワークショップを実施しました。各班、ごみの種類や問題点、自分たちにできることなど、活発に意見が交わされ、全体発表では、SNS（Facebookやツイッターなど）や口コミで家族や友人に伝え、みんなで連携して問題を解決していくことが大切であることとめられました。夜は交流会で参加者同士の親睦を深め、無事1日目を終了しました。



シンポジウム

2 日目は、NCC&ス タジオでシンポジウムを開催しました。一般市民や行政の方々、学生など、総勢98名の皆さまにご参加いただきました。まずはECANの宮原理事長のあいさつで始まり、午前の部は、基調講演とワークショップの成果報告。長崎大学名誉教授の糸山先生（ECAN理事）による基調講演は、昨年対馬で実施した清掃活動をもとに、「漂着ごみの清掃活動が学生に及ぼしたものの連想調査の結果から」というテーマで話されました。参加した学生の活動前と後では、対策や活動内容を表す言葉が増え、教育的に効果があることなどが紹介されました。



次にワークショップの成果報告では各グループの学生リーダーが発表し、会場から「清掃活動などで主に活躍するのは学生なので頑張してほしい」「一般の人をもっと巻き込んで活動してほしい。」などの声があがりました。

午後の部は、各地からの報告と意見交換。長崎、西海、佐世保、平戸、五島、上五島、壱岐、対馬で漂着ごみ問題に取り組む団体の活動発表をしていただきました。どの団体も「漂着ごみから自分たちの地元を守り、後世へ美しい海を伝えていきたい」という熱い思いが込められた貴重な報告でした。

意見交換では、活動団体に対して「現在困っていること」や「回収したごみの処理」などについて質問が出されました。特に困っていることとしては、活動資金やメンバーの確保、情報発信などが共通してあげられ、ECANの運営に携わっている事務局として強く共感してしまいました。



海

ごみKNIGHTS登場！

意見交換のあと、「我らは海ごみの騎士、ナイトだ！」と、やや緊張気味に海ごみの騎士が登場しました。ナイトを演じてくれたのは学生理事の前田くんと塩満くん。2人のナイトは「各地域が協力して漂着ごみ問題に取り組んでいくシンボルとして、K（上五島）、N（長崎）、I（壱岐）、G（五島）、H（平戸）、T（対馬）、S（佐世保・西海）、KNIGHTS（ナイト）」を掲げることを提案する。情報交換を深め、ネットワークを強化しよう！と提案。その後の糸山先生による大会宣言においても「漂着ごみとその清掃活動に関するお互いの実情を知り、協力し合うために、海ごみKNIGHTS連携体を立ち上げ、美しい海岸を取り戻す活動にともに取り組んでいく」と提案し、会場から大きな拍手が鳴り響きました。

少し時間は押してしまいましたが、最後までたくさんの方にお付き合いました。とても有意義なものとなりました。

最後になりましたが、ご協力いただいた皆様に心より感謝の言葉を申し上げます。本当にありがとうございました。



環境紙芝居の公演！

ゴミ君の涙

今年9月、長崎県廃棄物対策課の委託を受けて、長崎県内の4つの小学校で三次元環境紙芝居を公演しました。

演目は「ゴミ君の涙」。心無い人の手によって海に捨てられたゴミ君は、海でお魚のグリーンやカニくん、ヒトデのスターたちと出会い、海に捨てられたゴミによって海の生物たちが大変な被害を被っていることを知るというお話です。

公演を手伝ってくれたのは、長崎大学、長崎総合科学大学、ウエスレヤン大学の学生や主婦の皆さん。そして、訪れた小学校の先生にも声の出演をしていただきました。スタッフはそれぞれお揃いのイーキャンTシャツを着用して公演に臨みました。

公演した小学校は、南島原市立南有馬小学校、平戸市立根獅子小学校、上五島町立上郷小学校と東浦小学校。どこの小学生も真剣に耳を傾け、公演後のクエスチョンタイムでも活発に質問が飛び交いました。

終わってから届いたお礼の感想文には、「自分が捨てたゴミが地球を汚すことになるから絶対に捨てないようにしたい」、「今道端を歩いてゴミがある時は毎日拾って帰っています」、「海を大切にします」などのうれしい言葉がたくさんあります。

今回のような活動をこれからも継続していきたいですね。関わってくださった皆さん、本当にありがとうございます。



上五島で講演したスタッフ

9月30日東浦小



9月30日上郷小



9月22日根獅子小



9月14日南有馬小



ECAN事務局員

村田 麻理恵 さん



南島原市口之津町出身
鳥取大学大学院地域学研究科修了

番外編
ECAN
職員紹介
No.10

はじめまして。この度、10月からECANの事務局員となりました村田麻理恵です。松島さんの後任として、環境マイスター研修を担当しています。ECANとの出会いは、今から3年前の大学4年生のとき。地元長崎で環境に関わる仕事をしたいと思い、調べていたときに知りました。まさか、こちらで働かせていただけたとは、本当にうれしい限りです。

村田の特徴は、「鳥好き！」なところ。子どもの頃から様々な鳥を飼っていて、庭で「ワトリー！」と呼ぶと、走って「ワトリ」やカモたちが来る。そんな生活をしていました。

自然も大好きなので、環境保全について学びたいと考え、鳥取大学地域学部地域環境学科に進学し、大学院修士課程まで進みました。幅広い分野を通して、地域が抱える環境問題への解決策について学びました。

私の専門分野は生態学です。身近な環境における鳥類多様性の保全に興味があり、学部の頃は、鳥取大学構内をフィールドとして、植生と鳥類相の関係について研究

しました。大学院では、地域を構成する環境タイプ全体を対象を広げ、鳥類利用の幅広い理解を目指しました。まちなかに存在する鳥取大学構内ですが、120種類の鳥類を確認できました。

普段何気なく生活している環境でも、意識を向けると、実は多くの生物が生息しています。そこには、生息場所としての利点もあれば、課題も多く潜んでいます。もし、それに着目しなければ、将来的に彼ら（生き物たち）の生息場所を奪うことになりかねません。

私は現在、長崎市の鳥類生息状況に興味があります。長崎市では歴史資源への注目が集まっている反面、自然資源には、あまり関心が集まっていないように感じています。長崎市の生物について調べて伝え、人々の自然への関心をもっと高めたいです。しかし、私一人の力では限界があります。そこで、少しでも皆様のお力をお借りすることができれば本当に光栄です。ご興味がある方は、ぜひご連絡ください。まだまだ勉強不足ですが、ECANに貢献できるように頑張りますので、よろしくお願ひします。



主な研究テーマ
「身近な環境における鳥類多様性の保全について」

イベントレポート

環境カウンセリング協会長崎／
エコアクション 21 地域事務局ながさきの活動報告

1 ながさきエコライフ・フェスタ (2011/10/15 sat)

長崎水辺の森公園で開催された「ながさきエコライフ・フェスタ」に、今年もブース出展をしました。活動紹介のパネル展示と立体環境紙芝居「キャンドルナイトのよる」を上演しました。生活のなかで電気を使うものを一緒に考える場面では、多くの子供たちが一生懸命考えて発表してくれました。1回目の上演を見て、「人形を操作したい!」と3人の子供たちがお手伝いをしてくれました。大変にぎやかなエコライフ・フェスタになりました。ECAN のブースに来てくださった皆様、ご協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。



手伝ってくれた子どもたち



ブース



みんなでエコを考え中

2 特別定例会 (2011/10/11 mon)

7月から毎月1回行われている定例会。その特別版・特別定例会を行いました。講師は菅文彦さん（Earth! Breakthrough 代表理事）で、東京から来てくださいました。講話内容は、菅さんが行っている海岸林再生プロジェクト、飛行機植林プロジェクトについてでした。聴講者は30人ほどで会場は満員でした。NPO法人の普及活動に生かせる事例（電子媒体によるPR）もお話してくださり、質疑応答も大変活発に行われていました。



満員の会場



菅文彦講師

3 環境市民活動セミナー&意見交換会 (2011/11/3 thu)

長崎県民ボランティアセンターで行われた環境市民活動セミナー&意見交換会に、ECANから3名参加しました。主催は九州環境サポートセンターでECANも共催です。参加者はNPO法人の方々や将来NPO法人を立ち上げる夢をもつ学生などが参加し、約16名でした。テーマは、「資金調達と団体運営」～ドイツの環境団体から学ぶ、活動資金の集め方～。NPOを運営していくには、どうしたらよいか? 助成金申請のコツなどを勉強しました。意見交換会もあり、他のNPO法人の方々と交流することができました。



意見交換の様子

4 エコアクション 21 認証・登録支援セミナー

主に中小企業に対し、自治体や中核となる団体と共催でエコアクション 21 認証取得のための構築セミナーを開催しました。長崎市自治体 I.P では、7月15日に全体説明会を行い、構築希望事業者を募り、支援講座を8、9月で計4回実施しました（平均30社参加）。佐世保市自治体 I.P では、7月に全体説明会を2カ所で行い、構築講座を8～10月で計4回実施しました（平均5社参加）。長崎県建設業協同組合 G.P では、7月に全体説明会、構築講座を8～10月で計4回実施しました（平均22社参加）。3カ月の実績フォローの後、支援セミナーの最終講座を実施予定です（実施予定日：長崎市 I.P・12月2日、佐世保市 I.P・2月中旬、長崎県建設業協同組合 G.P・1月27日）。



セミナーの様子



菅 文彦 さん
アース・ブレイクスルー 代表理事

「アース・ブレイクスルー」という団体で、中国の砂漠緑化や東日本大震災・被災地の海岸林の再生プロジェクトなどの活動をしています。ECAN さんとも長崎で一緒に活動できたら嬉しいです。どうぞよろしくお願いします。



ECAN on Facebook

「環境カウンセリング協会長崎 Facebook」で検索 または ECAN ホームページからどうぞ。ECAN の最新情報を掲載しています。



12月1日現在、12人が「いいね!」を行っています。「いいね!」をクリックして、ECAN の活動を友達に知らせよう。

ECAN 新会員の紹介

NEW FACE!

Information

環境マイスター研修会（住宅建築部門）

日時：平成 24 年 1 月 26 日（木）・27 日（金）10：00～17：00
 場所：長崎歴史文化博物館（長崎市立山 1-1-1）
 対象：長崎県内の住宅建築業者
 お問い合わせ：環境カウンセリング協会長崎 TEL：095-818-3305

九州環境ボランティア会議 2012

日時：平成 24 年 1 月 21 日（土）・22 日（日）
 場所：長崎大学総合教育研究棟（長崎市文教町 1-14）
 対象：環境に興味のある方ならどなたでも！
 参加費：一般 1,500 円、大学生 700 円、高校生以下無料
 お問い合わせ：九州環境ボランティア会議 in 長崎実行委員会事務局
 TEL：096-277-9660

雨水ネットワーク九州 in 長崎

日時：平成 24 年 2 月 4 日（土）・5 日（日）
 場所：メルカつきまち 5F ホール（長崎市築町 3-18）
 お問い合わせ：環境カウンセリング協会長崎 TEL：095-818-3305

ECAN 定例会

■ 第 6 回講座「ライフサイクルアセスメントと環境ラベル」
 日時：平成 23 年 12 月 19 日（月）19：00～20：30
 講師：石橋康弘（熊本県立大学環境共生学部教授）

■ 第 7 回講座「環境市民のクラウド化」
 日時：平成 24 年 1 月 23 日（月）19：00～20：30
 講師：蒲原新一（長崎総合科学大学人間環境学部講師）

■ 第 8 回講座「裏から読む『環境白書』」
 日時：平成 24 年 2 月 13 日（月）19：00～20：30
 講師：矢野博巳（環境カウンセラー）

場所：環境カウンセリング協会長崎（長崎市五島町 3-3-206）
 お問い合わせ：環境カウンセリング協会長崎 TEL：095-818-3305

会員募集中！環境についてともに考え活動しませんか？

環境カウンセリング協会長崎は、中立な立場から市民、事業者、学術機関及び行政のパートナーシップの形成を図り、それぞれの環境への取組みを支援することを目的に設立されました。

循環型社会を根付かせ、人と自然が共に生きる心豊かな長崎を作るために、企業、団体、学術機関、行政そして市民としてそれぞれの立場からのご支援とご協力をお願い致します。



会員の種類	入会金	年会費
個人会員	1,000 円	3,000 円
学生会員	-	1,000 円
企業会員	-	10,000 円
団体会員	-	30,000 円
賛助会員	-	一口（50,000 円）以上

現在の会員数（平成 23 年 12 月現在）

個人会員 76 名、企業会員 29 社、法人会員 3 団体、学生会員 16 名

お申し込み・問い合わせ先
 環境カウンセリング協会長崎
 TEL (095) 818-3305
 E-Mail ecan@npo-ecan.org

— 理事

宮原和明（長崎総合科学大学名誉教授）、菅洋一（㈱エコシステム）、早瀬隆司（長崎大学教授）、武政剛弘（長崎大学教授）、川口孝範（㈱T・N・C・エスコ）、石橋康弘（熊本県立大学教授）、山田知代（ぽってんキャンドルナイト実行委員会）、空閑次男（エコアクション 21 地域事務局ながさき）、安永憲一（長崎県中小企業団体中央会）、新宮一広（㈱環境衛生科学研究所）、重橋裕明（長崎三共有機㈱）、糸山景大（長崎大学名誉教授）、浅田要一郎、富工妙子（ながさきホテルの会）、前田晴郎（自転車再生委員会）

<編集後記>

偶然差し入れにいただいた「よりより」をボリボリと食べながら、このヨリヨリ（ニュースレター）の編集後記を書いています（笑）。さて、10 月から新しく村田麻理恵さんが ECAN の職員に加わりました（6 ページ参照）。とても頑張り屋でおもしろい人です。仕事に追われる私に代わって、このヨリヨリの多くのページを書いてくれました。入って間もないのにとても頼れる存在です。皆さん、可愛がってあげてください。ちなみに洗濯機が壊れて困っているそうなので、洗濯機の買替えを検討している方はご連絡ください（笑）／塩竈綾（ECAN）

編集部 宮原和明 早瀬隆司 佐藤恵 塩竈綾 村田麻理恵 監修／山崎加代子 製作・デザイン／ECAN Makentosh



本誌のバックナンバーを ECAN ホームページより閲覧できます。↑

ECAN Newsletter ヨリヨリ vol.10(2011 年 12 月)
 ■発行：NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎
 Environmental Counseling Association of Nagasaki(ECAN)
 〒850-0036 長崎市五島町 3-3-206
 TEL(095)818-3305 FAX(095)826-3693
 業務時間：平日 10:00～17:00 定休日：土日祝日
<http://www.npo-ecan.org/>

■印刷 総合印刷 コマツ印刷

Copyright 2010 Environmental Counseling Association of Nagasaki All rights reserved
 本誌の無断複写・複製・転載を禁じます

ECAN LOGO MARK
 長崎県の形+葉っぱをイメージした緑
 右手は「力」を意味する赤。（ガッツポーズ）
 左手は美しい水を意味する水色
 回りの円は、碧い地球



このニュースレターは再生紙を使用しています